

彫り」で、もう1つが面で熊を表現する「面彫り」です。「毛彫り」はスイスの作品を真似たものから始まり、講習会講師の十倉金之氏が日本画の手法を応用して、毛の彫り方でその裏にある肉付きなどを表現するようになりました。そして「菊型毛」と呼ばれる、背中の肩甲骨の盛り上がった部分から四方八方に毛が流れる彫り方が誕生し、八雲の特徴となって定着しました。

一方「面彫り」とは、カットした面で熊を表現する抽象的な彫り方の総称です。スイスから持ち込まれた作品群に

終焉と再興

一時は制作者がたくさんいた八雲の木彫り熊も、戦争が

はなく、八雲オリジナルの手法です。また、八雲の熊には人間っぽさや、擬人化したものが多いことに気が付きます。これは最初のスイスの作品に擬人化したものがあつたことと、檻の中で生きた熊を飼っていた、しかも人懐っこかったことに由来しているようです。優しい印象を受ける顔立ちの木彫り熊が多いことも、これらの理由からでしょう。

始まると需要が低下し、徴兵もあつて下火となり、昭和18年に研究会は解散します。さらに戦後、材料の入手や販売に困る事務などを担ってきた徳川農場が閉場し、ほとんどの人は制作をやめてしまいました。しかし、最初から研究会に所属し、戦争中も彫って販売し続けたのが茂木多喜治氏です。戦前に昭和天皇へ木彫り熊を献上するほどの腕前で、専業として彫り続けました。そして、その技術を伝えるために昭和46年から公民館木彫り熊講座の初代講師を務めました。



「面彫り」作品



「毛彫り」作品



「熊の音楽隊」他にもスキーをする熊、堆積牧草の熊など、擬人化した作品が展示されています。



←公民館木彫り熊講座の初代講師茂木氏の作品



柴崎氏の作品→

一方、八雲の木彫り熊を芸術の域に高めたといわれるのが柴崎重行氏です。「面彫り」の一種、「斧で割っただけのよいうな「ハツリ彫り」で、木をそのまま生かして制作しました。その作風から円空仏を連

今年で木彫り熊が誕生して90年、八雲の街中には当たり前のように木彫り熊があつて隠れた「木彫り熊ワールド」となっています。大きな節目となる100周年にむけて、今後発掘していきたいと思えます。

想する人もいます。このあとに続いたのが加藤貞夫氏・上村信光氏・引間二郎氏です。また、独学で制作をはじめた鈴木吉次氏や、木彫り熊講座を受講した人々がい

なお、公民館の木彫り熊講座は、茂木氏のあとを上村氏・引間氏が継ぎますが、平成15年から休講してしまいました。しかし平成25年度から千代昇氏を講師として再開し、平成26年度は受け付け開始から1週間たらず定員に達しました。

木彫り熊資料館では、木彫り熊や関連道具の寄贈、八雲町の木彫り熊に関する情報を募っています。

寄贈を希望される方や詳しい情報をお持ちの方は、木彫り熊資料館までご連絡ください。

八雲町木彫り熊資料館

【開館時間】午前9時～

午後4時30分

【休館日】月曜・祝日・年末年始

【入館料】無料

☎ 0137-63-3131

☎ 0137-64-3848

メール:museum@town.yakumo.lg.jp

※資料の一部は八雲産業株式会社
の寄託資料および写真は徳川林政史
研究所の所蔵で、許可を得て撮影
しています。